

Modular system in wooden architecture in between trees

樹間における木造モジュールシステムの提案

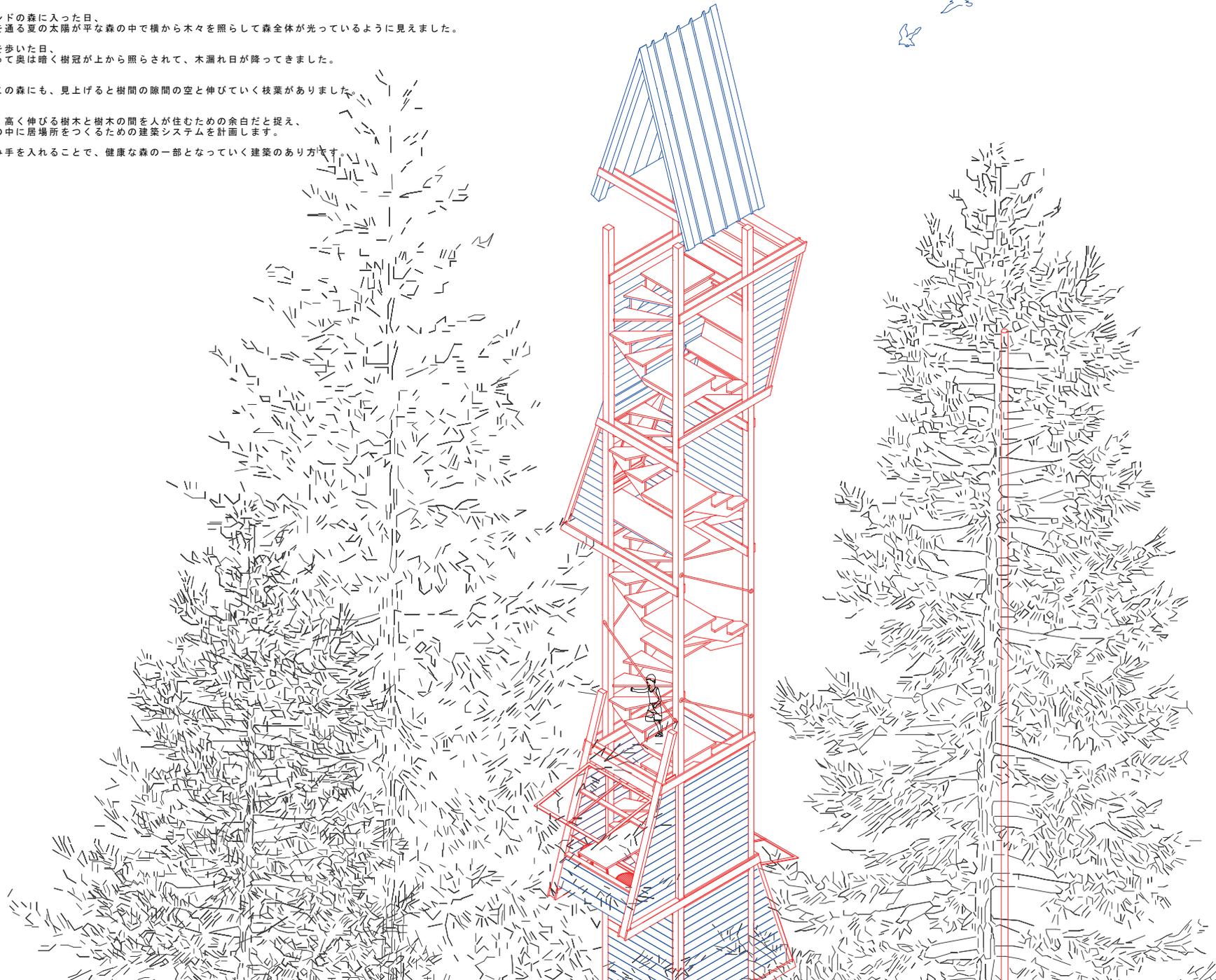
フィンランドの森に入った日、
低い位置を通る夏の太陽が平な森の中で横から木々を照らして森全体が光っているように見えました。

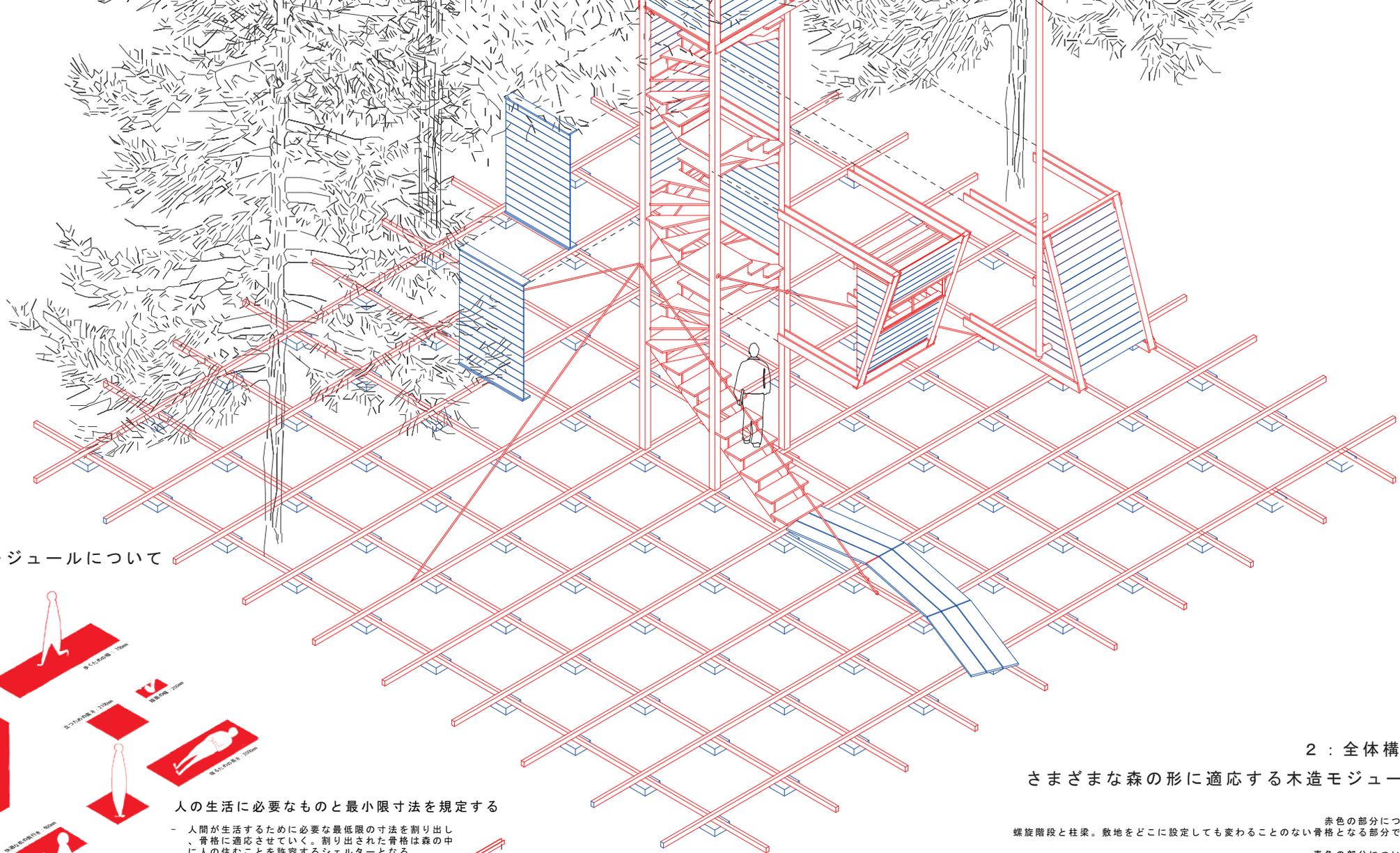
長野の森を歩いた日、
傾斜によって奥は暗く樹冠が上から照らされて、木漏れ日が降ってきました。

世界のどここの森にも、見上げると樹間の隙間の空と伸びていく枝葉がありました。

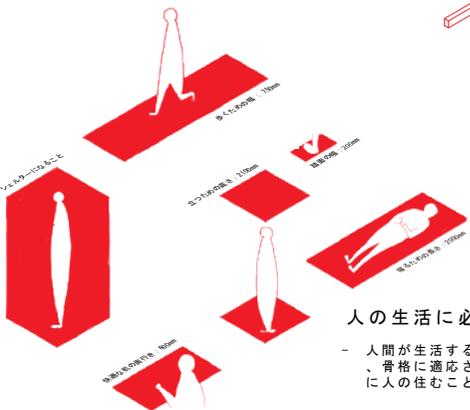
林内、細く高く伸びる樹木と樹木の間を人が住むための余白だと捉え、
人間が森の中に居場所をつくるための建築システムを計画します。

人間が住み手を入れることで、健康な森の一部となっていく建築のあり方を。





1: モジュールについて

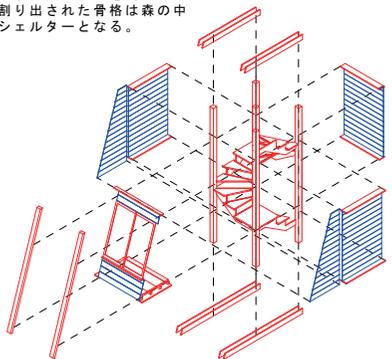


人の生活に必要なものと最小限寸法を規定する

- 人間が生活するために必要な最低限の寸法を割り出し、骨格に適合させていく。割り出された骨格は森の中に人の住むことを許容するシェルターとなる。

各モジュールの構成と構造

- 中心に螺旋階段がありますが、これは、森の中で重機を使用せず、階段を足場として使いながら建設するためにも使用
- 各部材について、細く軽いものになるよう寸法を決定。
- 梁は柱に抱かせて固定。キャンチさせて部屋のボリュームをつくる。その上に根本、床、間柱、外壁、内壁というように外側から内側へ建設。



2: 全体構成 さまざまな森の形に適応する木造モジュール

赤色の部分について
螺旋階段と柱梁。敷地をどこに設定しても変わらない骨格となる部分です。

青色の部分について。
その骨格を包む皮膚となる外壁や屋根、土壌との設置部分を表しています。敷地が変わったとき、その土地の木材を使用した外壁材や、気候に対応した壁構成にし、林内環境や地域、風土に対応させていきます。
赤い骨格は人間のスケールから来ているかたち、青い部分は気候や周りの動植物の変化によって変化する、地球のスケールを写しとるようなかたちと考えています。

不変的なもの	-----	可変的なもの
人間のスケールからできる形	-----	地球のスケールからできる形
構造	-----	仕上げ
骨格	-----	皮膚



3 : ケーススタディ

ケーススタディとして3つの地域を想定してみました。基礎や外壁として使われる材料は、その森の土壌、流通する木材によって変化します。たとえば、私たちが旅をするときに身につけるものを変えていくように、この建築も骨格はそのままに覆われるものは土地に影響されます。

4 : この家での生活

この植物のように空に伸びていく階段を一番上まで登ると、周りの木々よりも高いところに辿り着き、樹木の頭が雲海のように足元に広がります。冬、落葉樹林の森では、裸の木々の隙間から夏は見えなかった山の稜線が見えてきます。

このモジュールが地球全体に広がっていき、人間と森林が共生するための一つの方法となっていくことを願っています。

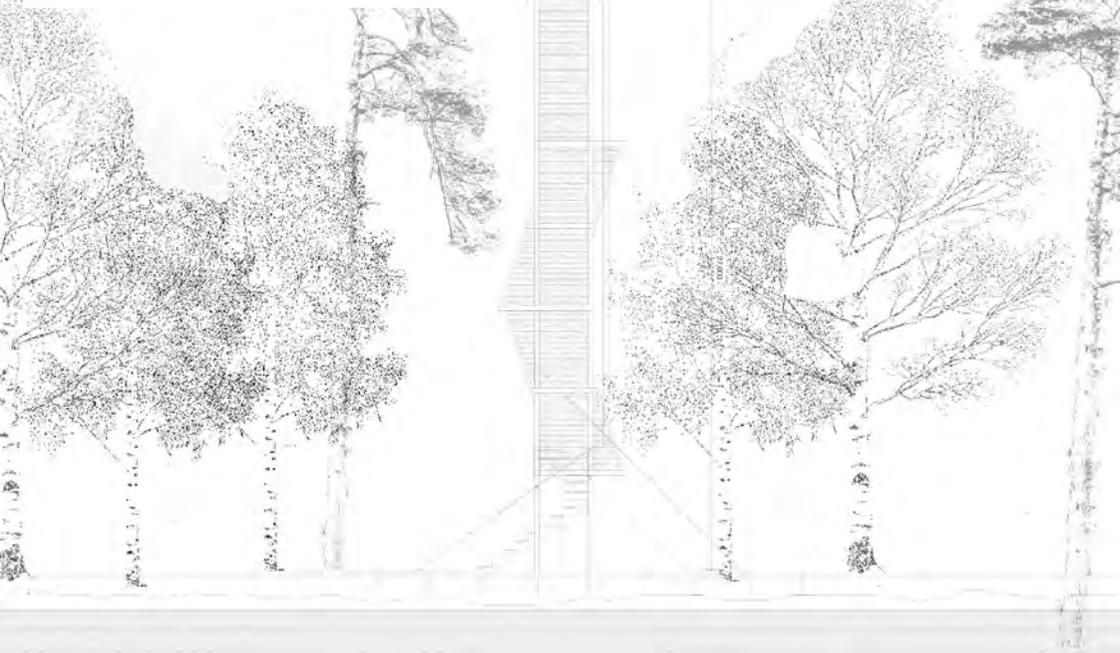
case 2

function: サマーハウス

unit: fire place/薪ストーブ, kitchen/台所, dining/食卓, cozy/小上がり

place: フィンランド クフモ / 白樺とセイヨウアカマツの混合林 / 基盤岩、モレーン土壌

material: スプルース



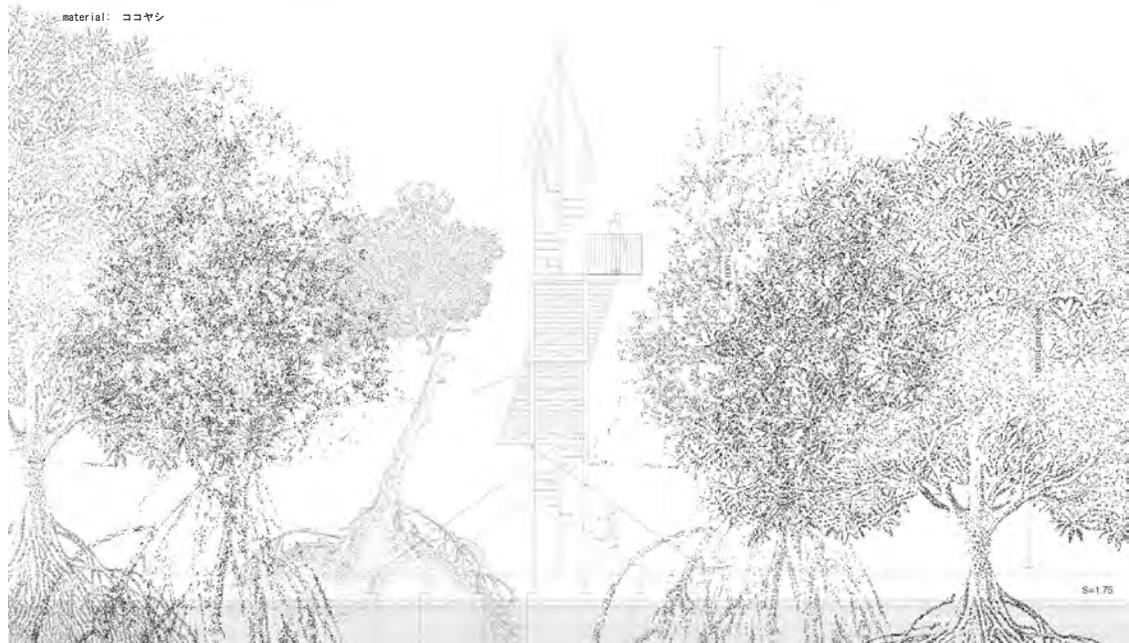
case 1

function: のんびり本を読むための週末住宅

unit: kitchen/台所, dining/食卓, cozy/小上がり, bed/寝室

place: タイ / ヤエヤマヒルギ(オオオバヒルギ)のマングローブ / 塩性土壌、泥土

material: ココヤシ



case 3

function: ワークーションで時々訪れる別荘

unit: kitchen/台所, dining/食卓, study/書斎, bed/寝室

place: 日本 長野 / 落葉広葉樹林

material: カラマツ



5 : 6つのユニット

階段部分に必要な機能がこのユニットが巻き付けていく。今回は、キッチンユニット、食卓ユニット、薪ストーブユニット、薪ストーブユニット、小上がりのユニット、寝室のユニット、各機能の必要階段の寸法を決定し、奥行きを確保し、高さの決定は、生活の例え、寸法をまとめる。

